

大型連休も、今日で終わります。能登半島では連休中に、地震が起こりました。被災された方々に、平安を祈ります。今朝の礼拝では、役員任職式があります。いよいよ本格的に始まる新年度の歩みに、主の祝福が豊かにありますように。

人生のガイドブック

ルカ 15 章は、三つの有名な「探し求める例え話」が記されています。迷い出た羊、失われた銀貨、そして今朝の放蕩息子です。それらが私たちに指し示すものは、「私たちが神を探し求める時、神もまた私たちを探し求めてさまよっている」という真理です。イエス様が語られる、神の愛がいかなるものかを、教えているのです。

9章から 19 章までは「エルサレムへの旅」と呼ばれる部分です。前半の「ガリラヤの春」、後半の「エルサレムの冬」の間に挟まれています。ここには、この世の厳しい信仰生活を送るクリスチャンに向けた、日常の出来事に対する、神の御心を知るヒントがちりばめられています。人生という旅のガイドブックです。

このガイドブックで、私たちがしばしば気づかされることは、自分自身の思っている姿と、実際の違いです。地図を見て、自分が思っていた方向が反対だったことを知るように、自らの過ちを照らされるのが、聖書の言葉です。人から見えない心の部分を、正されることによって、新しい力と喜びが、その人の内に湧いてくるのです。

探し求める神

今朝の箇所が、私たちに語る奥義は、「あなたが探し求める以上に、神があなたを探し求めてさまよっている」ということです。世の中は、自業自得で迷い出た人間を、放っておくでしょう。しかし、神様は違うというのです、そんな人を、気が狂わんばかりに探し求め、さまよっているというのです。

「自分から罪人を探し求めてさまようという神の像は、ユダヤ人の思いも及ばぬもの。探し求める神の愛を信じることができるといことは、われわれの栄光」

(バークレー)

私が神を愛したのではなく、神がまず私たちを愛してくださって、ご自身を捧げてまで救い出してくださったのです。この真実を心に留める時、心のよりどころを見出す思いになるでしょう。失敗を恐れて踏み出せない人生から、何度でもやりなおせる、やり直して良いんだと心から思える、幸いな人生に、変えられていくでしょう。

人生のガイドブックには、お父さんからの手紙が挟まっています。「お前は息子ではない」と書かれていると思い込んでいた紙に「いつまでも待っているよ」とメッセージが。放蕩息子は、神の愛を私たちに証明するイエス様のメッセージなのです。